

千早赤阪村における中世城郭の調査と研究 Part2

一般社団法人 千早赤阪楠公史跡保存会

■活動内容

当法人が令和5年度に発足させた「千早赤阪村城郭調査活用委員会」により、引き続き令和6年度も千早赤阪村を中心に金剛山麓一帯の中世山城について赤色立体地図を用いて地形分析するとともに現地調査を実施します。令和6年度は、令和5年度に赤色立体地図により発見され、現地調査で確認された山岳寺院の詳細調査、新規に発見された10ヶ所余りの城郭想定地の確認調査（令和5年度3ヶ所確認予定）を実施します。また、この調査結果を広く公開するため、令和5年度に引き続き会員への定期的な報告会と村民や村外の人達を対象にシンポジウム・見学会を開催し、分かりやすくその成果を公開します。また、会員・村民有志により、新たに確認された山岳寺院跡や城郭の活用と保全の為にアプローチの調査と設定を始めます。

■コンセプト・ねらい

従来の千早城や赤阪城のような「点」の地域・学術資源ではなく、千早赤阪城跡群としての包括的な面としての地域・学術資源として価値付けを進めます。

本調査により本会の活動対象である楠木正成公関係史跡に対しての学術的な評価を高めることで、観光・学習資源として地域活性化や会員も含め地域の人たちのアイデンティティを高める一助にしたいと考えています。さらに、交通アクセス問題・少子高齢化などを抱え低迷する千早赤阪村だけでなく、周辺地域を含めた広域的な地域づくりに貢献したいと思っています。

■活動実績

1. 「千早赤阪村城郭調査活用委員会」の活動

今年度も委員会の開催と現地調査、さらに調査や関係遺跡から出土した土器の検討会を外部の研究者・有識者を交えて行った。

○第1回全体会議：令和6年4月29日（月・祝）：千早赤阪村立郷土資料館2階研修室

中井均委員、岡寺良委員、中西裕樹委員、伏井信之委員、森田遥委員、尾谷雅彦委員、森口芳樹委員、事務局林秀治

○採取遺物整理：令和6年8月5～9日

○第2回全体会議：令和6年9月1日（日）：千早赤阪村立郷土資料館2階研修室

中井均委員、岡寺良委員、中西裕樹委員、和泉大樹委員、尾谷雅彦委員、伏井信之委員、森口芳樹委員、事務局林秀治

○第1回追加現地調査：令和6年12月25日（水）

○第3回全体会議：令和7年2月11日（日）：

岡寺良委員、中西裕樹委員、尾谷雅彦委員、伏井信之委員、森田遥委員、森口芳樹委員、事務局林秀治

○中世土器検討会：令和7年2月11日（日）：くすのきホール2階会議室

研究会20名、一般6名参加

2. 「城郭サミット」の開催

令和6年11月9日（土）城郭調査報告・シンポジウム：くすのきホール：129名/

令和6年11月10日（日）：現地見学会：千早城跡：36名

■成果・効果

今年度も城郭調査とその成果を活用しシンポジウムと見学会の公開事業を実施し、多くの人たちの参加を得た。

1. 「千早赤阪村城郭調査活用委員会」の活動

2か年にわたって調査を実施した成果をまとめる段階へ進むために、赤色立体地図の検討、現地調査だけでなく、調査などで採取した遺物（土器を中心）の調査を実施した。その調査精度を高めるため、全国の中世土器研究の第一人者が集まる研究者グループとコラボで検討会を実施した。結果的には金剛山麓の城郭は南北朝時代から戦国時代にかけて長く使用されていたことが確認された。また南北朝時代には東海地方の土器文化の影響がみられることがわかり、新たな知見をえた。この成果は、金剛山麓の中世城郭の歴史的価値を高めるとともに、全国の研究者だけでなく城郭愛好者たちに当該地域に注目を集めることになると思われる。

2. 「関西城郭サミット」の開催

シンポジウムでは昨年よりも参加者が1.5倍となり、村内のみならず関西以外からの参加者もあり、金剛山麓の中世城郭の重要性と千早赤阪村をアピールすることができた。また、この機会にと若い村内移住者から地元産品の物販も行われ好評を得た。見学会では、村民による史跡案内ボランティア養成も兼ねて実施し、定員を上回る申込者があった

■今後の展開

2か年の調査成果を学術的には速やかに報告書を出版し、全国的に知らしめる。

また、村内外の一般の人たちには、この成果を周知してもらい、千早赤阪村及び金剛山麓の中世城郭を訪れてもらうために、成果をやさしく解説したパンフレットを作成する。

また、この成果を村民や愛好者と共有するための解説講座を定期的にひらく。また、今後も城郭サミットを開催し、千早赤阪村の地域づくりの一環の祭りとしてシンポジウム、古典芸能（今回は講談）、村内生産者とコラボした村内物産の物販、さらに、村民ボランティアの解説による見学会の実施や、その新たな探索ルートの開拓を進めていきたい。そして、行政にも積極的な参加を促していきたい。

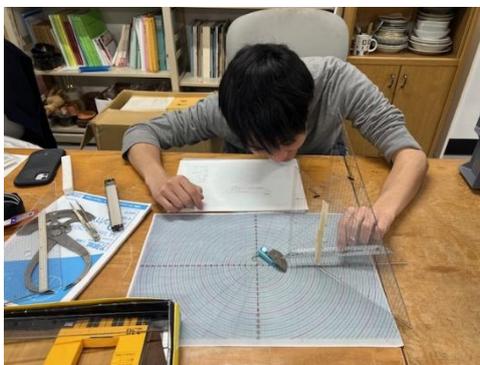
1. 「千早赤阪村城郭調査活用委員会」の活動

○全体会議

第1回(令和6年4月29日)、第2回(令和6年9月1日)、第3回(令和7年2月11日)



○採取遺物整理(令和6年8月5日から9日)



○中世土器検討会(令和7年2月11日)



2. 「関西城郭サミット」の開催

関西城郭サミット 2024in 千早赤阪 金剛山系の寺院と城郭 実施報告書

(1) 実施概要

- 名称 関西城郭サミット 2024in 千早赤阪 金剛山系の寺院と城郭
- 開催日程 2024年11月9日(土)・10日(日)
- 開催時間 【9日】10時45分～16時15分 【10日】13時～16時30分
- 開催場所 【9日】千早赤阪村立くすのきホール 【10日】千早赤阪村立郷土資料館・千早城跡
- 開催目的

金剛山系には、国史跡に指定された千早城、楠木城(上赤阪城)、赤阪城(下赤阪城)をはじめ、数多くの中世山城が確認されています。この千早赤阪の地は、建武新政の立役者・楠木正成公が活躍した場としてもよく知られているところです。また和泉・金剛山系は、役行者が開いたとされる葛城修験が行われ、日本を代表する一大霊場でした。金剛山はその中心となる一角を占めており、周辺には金剛山転宝輪寺、天野山金剛寺、檜尾山観心寺などの有力な寺院が数多く分布し、南朝勢力と深く結びついていたことでも知られ、当地の城郭の在り方を考える上では、寺院の存在を抜きにして語ることはできないと言えるでしょう。今回の関西城郭サミットでは、「金剛山系の寺院と城郭」をテーマに、当地の寺院と城郭の相関関係を考えてみたいと思います。さらに、昨年度から開始した千早赤阪城跡群の調査成果の報告会も併せて実施いたします。

■実施内容

【9日(土)】講演会とパネルディスカッション

楠公誕生地前広場にて千早赤阪山城マルシェ開催(共催：道の駅ちはやあかさか)

【10日(日)】楠木城跡・猫路山城跡見学会

■主催 一般社団法人千早赤阪楠公史跡保存会・千早赤阪村教育委員会

■後援 千早赤阪村・歴史街道推進協議会

(2) 実施実績

■参加者数 【9日】129名(理事含む) 【10日】36名(スタッフ含む)

(3) 広報活動

■チラシ(見本・印刷枚数・配布先)

- ・A4サイズ両面カラー 3000枚
- ・村内外全会員に配布
- ・近畿圏内資料館、大学等127カ所に送付

■その他

- ・保存会公式Webサイト
- ・保存会公式Instagram・Facebook

(4) 資料集

資料集 41ページ フルカラー

250冊1,000円にて販売

※資料のみ購入希望者 5名

The poster features a vertical title '金剛山系の寺院と城郭' on the left. The main event on 11.9 is titled '千早赤阪城跡群調査報告会とシンポジウム' and includes a schedule from 10:45 to 15:15. The second event on 11.10 is '千早城跡の見学会' from 13:00 to 16:30. The poster also lists the venue, ticket price (1,000 yen), and contact information for the organizing committee.

(5) 講演内容

第1部 千早赤阪城跡群調査報告会

【報告】千早赤阪城跡群調査報告

岡寺良氏・和田花氏・福島大樹氏・岡村隆洋氏/立命館大学考古学・文化遺産研究室

【講談】千早城合戦 玉田玉秀齋氏/講談師

第2部 シンポジウム「金剛山系の寺院と城郭」

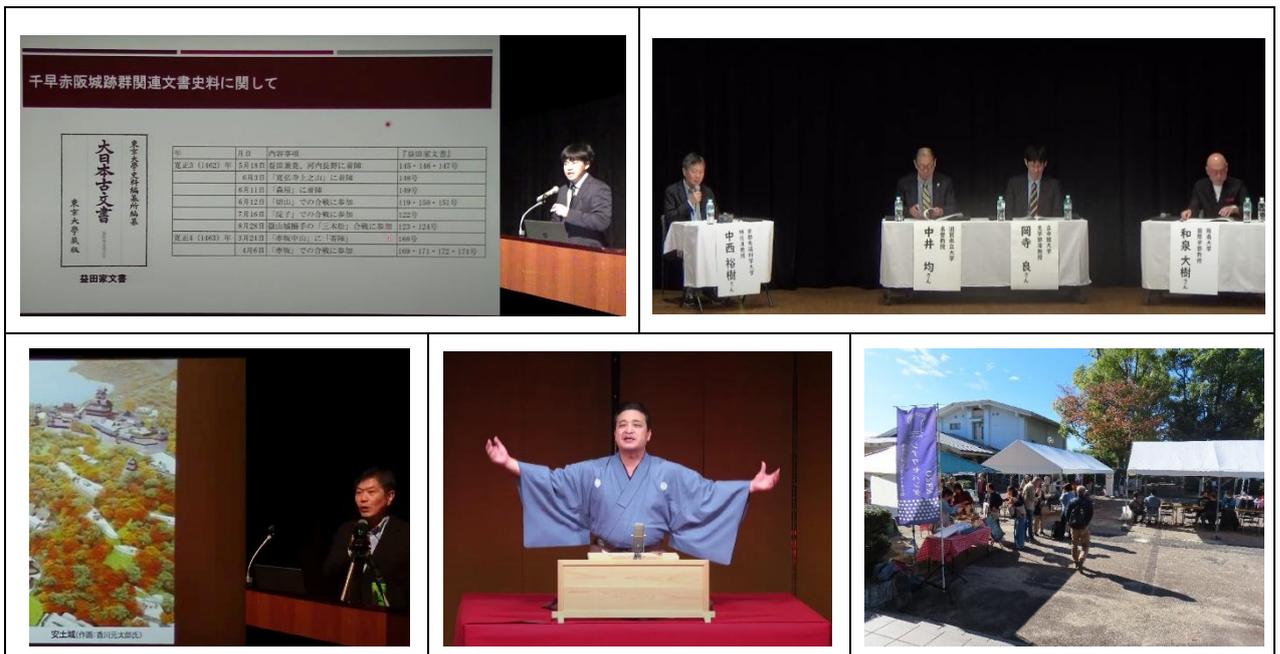
【基調講演】聖と戦ー武装する中世寺院ー 中井均氏/滋賀県立大学名誉教授

【報告1】縄張りから見た山の寺の城、利用した城 中西裕樹氏/京都先端科学大学特任准教授

【報告2】金剛山系の寺院・城郭と葛城修験 岡寺良氏/立命館大学文学部准教授

【パネルディスカッション】金剛山系の寺院と城郭を考える

司会 中西裕樹氏 パネラー 中井均氏・岡寺良氏・和泉大樹氏/阪南大学国際学部教授



(6) 現地見学会内容

■郷土資料館・千早城跡の見学会

【現地説明】岡寺良氏・尾谷雅彦氏

